

希望の年へ

③

NPO法人「きょうとグリーンファンド」

おおにし 大西 啓子事務局長(61) 〓京都市伏見区

東日本大震災、福島第一原発事故に大きな衝撃を受けました。再生可能エネルギーはそれまで、地球温暖化防止というストーリーの中で語られていたが、震災後は原発問題が加わった。原子力を推進してきた体制や放射能汚染を目的の当たりにして、多くの人が疑問を感じたはずです。私自身も再生可能エネルギーを推進し、持続可能な社会につなげなければ、との思いをあらためて強くしました。

再生エネルギーを推進

内の幼稚園や保育所など環境教育の拠点に活用変わります。例えば、太陽光パネルを設け、余剰電力分は寄付園長さんによると、設置しています。

市民や企業の寄付で成り立つ事業なので、設置後は「おひさま発電所」として地域で環境教育の拠点に活用変わります。例えば、太陽光パネルを設け、余剰電力分は寄付園長さんによると、設置しています。

すでに15カ所に取り付けました。

京都市北区の大宮保育所ではかつて、ものはよく壊れ、外遊びに出かける時も冷房をつけ放しだった。それが



「エネルギーを過材適所でつましく使う、という意識を持つことが大切」

(京都市下京区・きょうとグリーンファンド)

原発に多くの人が疑問

環境に無頓着だった保育士から変わりました。

紙おむつを布製に変更するか、雨水タンクを設置するなど、次々と良い変化が起こりました。それは他の設置拠点でも同じでした。環境への配慮を身につけた子どもたちが学校に進み、環境配慮の行動はやがて家庭や地域に広がります。

多くの人が、原発や、湯水のごく使うエネルギーの在り方に疑問を持ち、口にし始めました。その思いを共有し、あの日の悲劇を、持続可能な社会への希望に変えていかなければならない。来年2月には関電の全原発11基が定期検査などで止まります。これも覚悟を決めるための一つのきっかけになるのではないだろうか。

(聞き手・生田和史)